

# 東北学院大学アーバンキャンパス計画

本学は「キリスト教の信仰に基づく人格教育」を旗印に教養教育を重視する総合大学です。この計画は、総合大学で様々な領域の学問を学ぶ若者たちが集い、異なる能力を持ち寄って、新たなものをつくる喜びを体験できるキャンパスライフのより高度な展開のため仙台都心部の土樋-五橋地区を一体的な「ひとつのキャンパス」として整備し、併せて地域交流拠点機能を持たせることを目指します。



# 東北学院大学アーバンキャンパスの基本方針

## 1) 学都仙台を象徴するキャンパス

時代の新たな要請に応え得る教育・研究の場として、本学の教育力の向上と、新たな学問領域へ挑戦し、学部・学科を越えた適切な改組転換も検討する。

## 2) 地域と共創するキャンパス

仙台都心部に隣接する都市型キャンパスに相応しい街並み形成を目指し、大災害時の帰宅困難者の一時受け入れを地域とともに検討する。

## 3) 市民に開かれたキャンパス

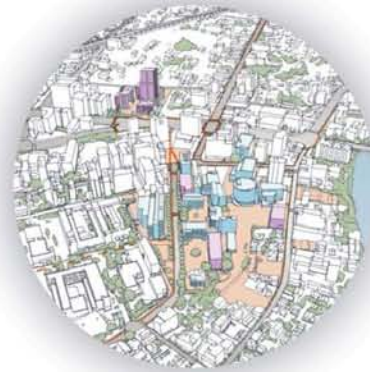
多彩なプログラムを通して、学生が多様な人々と交流のできるキャンパスとして、学内外で、いろいろな市民と出会い、好奇心や向学心を刺激され、学内だけでは得られない教育効果を創出する。

## 4) 新旧一体のキャンパス

歴史を刻む建物を尊重したキャンパスの顔をつくりつつ、新しい時代に対応したキャンパスを構成し、自由で安全な歩行空間を確保し、一体的な運用を図る。

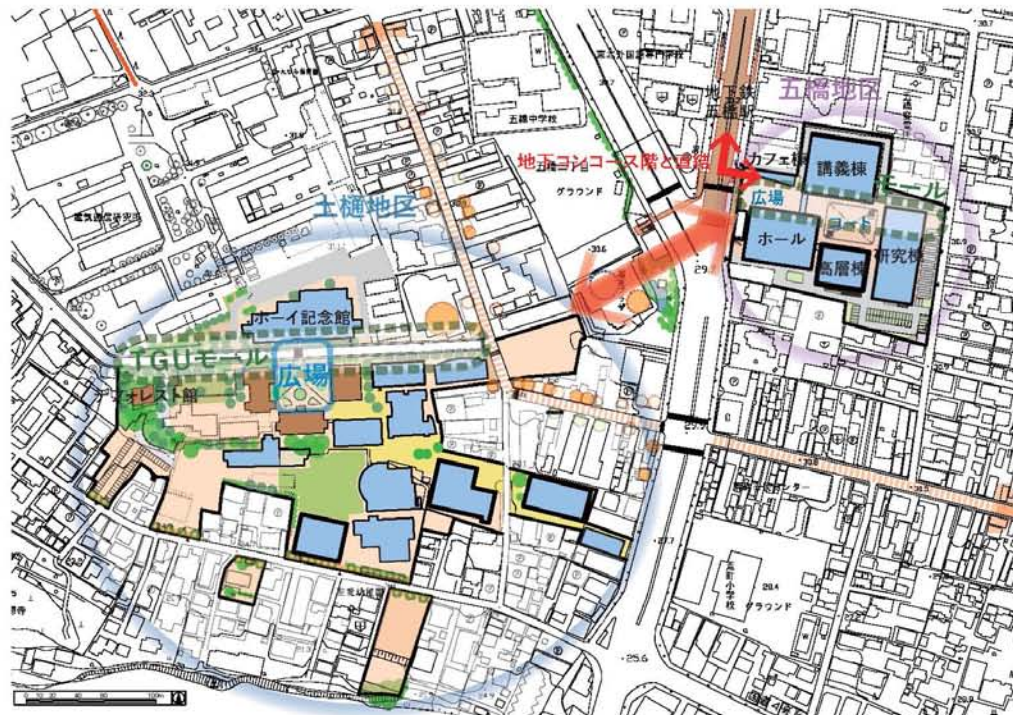
## 5) 時代と共に成長するキャンパス

「ひとつのキャンパス」の実現は、段階的にいり時代の要請に対応しながら計画の修正を行い、持続可能なグリーンキャンパスを目指す。



## ひとつのキャンパス

特色のある土樋地区と五橋地区は一体的なひとつのキャンパスとして都市型交流キャンパスを創出する



## 土樋キャンパス



TGUモールとホーイ記念館の外観

### 3つの保存建築を尊重した新校舎

本館、ラーハウザー記念東北学院礼拝堂、大学院棟(旧シュネーダー記念図書館)の3つの保存建築とともに、広場を囲むように、ラーニング・commonsを備えた「ホーイ記念館」を開館。[平成28年9月12日]

### TGUモールに沿った施設配置

国の重要文化財に「東北学院旧宣教師館」として指定(平成28年5月20日)されたデフォレスト館(旧シップル館)や総合研究棟などをつなぐTGUモールに沿って、ホーイ記念館の1階に、食堂(カフェ)、ラーニング・commonsなどを配置。学内外の協同学習による交流を通じて得られる様々な価値観や学びの共有を実現させる。

## 五橋キャンパス



五橋アーバンキャンパスのイメージスケッチ

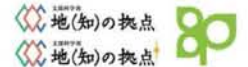
### 学都仙台のシンボル景観

特徴ある建築のホールを幹線道路沿いに配置し、高層タワーを広場やモールを囲むように配置する。愛宕大橋、新幹線、東二番丁通などからのランドマークとなる。新たに誕生・成長する学生街では、活気に溢れる学都の印象を彩る。

### 未来の扉を開く地域連携・協働の支援拠点

ホール棟1階につくられる「未来の扉センター」は、仙台市との連携・協力事業の文部科学省【COC事業】【COC+事業】【BP事業】を継承し、さらに発展させる拠点施設。「グランドビジョン150」においても、基本方針の一つとして重視されている地域貢献(「社会貢献」)を果たす。

COC Center of Community  
COC+ Center of Community+  
BP Brush up Program for professional



### 駅・キャンパス・東西をつなぐモール

地下鉄五橋駅地下コンコース階への接続通路を設置し、学生や教職員の利便性を高める。愛宕上杉通と東七番丁通の間を一般市民の歩行者が自由に通行できる東西をつなぐ空地(モール)を確保し、荒町商店街や連坊通り商店街との歩行者動線として地域住民の利便性向上に寄与する。

### モールに沿った施設配置

5つの建物をモールでつなぎ、モール沿いには未来の扉センター、食堂、カフェテリア、ラーニング・commons、図書館、産学連携推進センターを配置し、交流とにぎわいを創出する。



東西の交流軸となるモールのイメージスケッチ

# キャンパス整備の考え方

## ○若者の街を牽引するキャンパス

本学の創設以来、一貫して本部が置かれてきた土樋キャンパスと五橋キャンパスに、泉キャンパス・多賀城キャンパスの学部を移設し、集約・統合して、約1万2千人が集うキャンパス拠点となることを目指す。

高等教育機関が明治末期や大正時代から立地している片平～土樋～五橋エリア周辺は、東北大学片平キャンパスとともに、歴史的な学都仙台を継承しつつも、都心南部の新たな若者の街として連携と交流のシンボルゾーンを形成する。



## ○市民との学びや交流がうまれるキャンパス

市民社会が成熟し、市民一人ひとりの興味や関心にそった活動や学びへの欲求が高まっている現代において、学生は地域社会における様々な体験を通じて人間的な成長や学問への気づきを得ることができる。

土樋・五橋アーバンキャンパスでは、研究発表や公開講座を開催するなど、広く市民の学ぶ機会を提供し、また市中心部においてニーズが高い大講義室やホールを整備する。パイプオルガンを備えた特徴的なホールは、市民の音楽活動や学術セミナーなどにも積極的に提供する。



フランス・ケルン社製パイプオルガン

## ○「学都仙台」のまちづくりに貢献する都市型キャンパス

仙台市基本構想で掲げている4つの都市像の中の「未来を育み創造する学びの都」を実現するため、本学が保有する多彩な資源を仙台中心部に集積し、文理融合のシナジー効果を高め、学都仙台のまちづくりへの貢献を目指す。

緑の回廊を構成する東二番丁通りのアイストップとして「杜の都」を象徴するキャンパスを整備し、また地下鉄五橋駅に直結させ、食事や散策など市民が自由に訪れる都心のオープンスペースとしての環境整備を行う。



カフェテリアが面する広場

## ○移転後のキャンパス利用方針の検討

泉キャンパスは体育施設としてそのまま活用し、教育施設として使用しているキャンパスの一部と多賀城キャンパスは、仙台市や多賀城市、地元住民ら関係者と話し合いを持ちながら有効利用を検討する。